

記入年月日
令和 3 年 4 月 1 日

事務事業名		人間ドック・脳併用ドック健診助成事業		事業区分		担当	
				新規/継続	継続	事務事業No.	010701000394
政策体系上の位置付け				単独/補助	単独	所属課	030201
総合計画の施策名 0107 社会保障制度の健全運営							国保年金課
政策体系	政策名	01	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり			課長名	
	施策名	07	社会保障制度の健全運営			グループ	国保給付G
	手段名	01	①医療保険制度の充実			担当者名	
財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	国民健康保険特別会計
	02	06	01	01	01	00	保健衛生普及事業
法令根拠	高齢者の医療の確保に関する法律、桜川市国保人間ドック等助成要綱						
				単年度繰返し (平成22年度～) → 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その1）

手段	(1) 事務事業の概要	
	①事務事業の概要（事務事業の全体像） 平成22年度より、桜川市の30歳以上75歳未満の被保険者に対し、「人間ドック」「脳併用ドック」等健診費助成を助成することにより健康に対する自覚を高め、かつ被保険者の健康の保持増進を図り、国民健康保険事業の健全な運営に寄与することを目的としている。	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 4月中に申込受付。健診機関で予約後、申込・申請者で要件を満たす（国保資格あり、国保税滞納なし等）方に交付通知。健診後、健診機関からの請求により、助成を行う。 助成金は人間ドック20,000円・脳併用ドック40,000円

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段（担当者の活動内容）	④活動指標（活動量を表す指標）	単位	01年度 （実績）	02年度 （実績）	03年度 （計画）	04年度 （目標）	05年度 （目標）
4月中に申込受付。健診機関で予約後、申込・申請者で要件を満たす方に交付通知。健診後、健診機関からの請求により、助成を行う。	人間ドック・脳併用ドック助成者数	人	699.00	654.00	670.00	690.00	710.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象（誰、何を対象にしているのか）	⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）	単位	01年度 （実績）	02年度 （実績）	03年度 （計画）	04年度 （目標）	05年度 （目標）
30歳以上75歳未満の桜川市国民健康保険被保険者	国民健康保険被保険者数（年度末現在）	人	9,477.00	9,301.00	9,150.00	9,000.00	8,850.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図（この事業によって対象をどう変えるのか）	⑥成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）	単位	01年度 （実績）	02年度 （実績）	03年度 （計画）	04年度 （目標）	05年度 （目標）
被保険者の健康の保持増進を図るため、人間ドックと脳併用ドックの費用を助成することで、疾病等の早期発見する機会を促すことで重症化を防ぐ。	受診率	%	7.30	7.00	7.30	7.60	8.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量（事業費）の推移				01年度	02年度	03年度				期間限定 総投入量
				(実績)	(実績)	(計画)				
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0			0
			県支出金	千円	0	0	0			0
			地方債	千円	0	0	0			0
			使用料・手数料	千円	0	0	0			0
			その他	千円	0	0	0			0
			一般財源	千円	11,364	9,284	12,789			0
			事業費計（A）	千円	11,364	9,284	12,789			0
			正規職員従事人数	人	5.00人	5.00人	5.00人			

02年度事業費 実績 (千円)				03年度事業費 予算 (千円)			
事業費の内訳	11 役務費	57		11 役務費	64		
	18 負担金補助及び交付金	9,227		18 負担金補助及び交付金	12,725		
			合 計	9,284		合 計	12,789

事務事業名	人間ドック・脳併用ドック健診助成事業	事務事業No.	10701000394	所属課	国保年金課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 平成20年度より、特定健診・保健事業が義務付けられ健康に対する関心が年々高まってきた。平成22年度から、被保険者が健康状態を自覚し、予防、早期発見、早期対策することで重症化を防ぎ、医療費の抑制が図られること目的として開始された。平成25年度には、受診者の対象年齢を40歳以上から30歳以上の被保険者とする事で、受診対象者を拡大した。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
現状維持	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？) ☒ 結びついている 被保険者の健康状態の自覚と疾病の早期発見、早期治療は、疾病の重症化を防ぎ医療費の抑制につながることから結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称) ☒ 妥当である 被保険者の健康状態の自覚と疾病の早期発見、早期治療は、疾病の重症化を防ぎ医療費の抑制につながることから妥当である。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？) ☒ 向上余地がない 受診結果によって、総合所見等により適宜再検査等を受けることになっていることから向上の余地はない。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？) ☒ 影響有 被保険者の健康状態の自覚と疾病の早期発見、早期治療を促す助成制度であることから、健診意欲を削ぎ、疾病の重症化による医療費増加が予想されることから影響がある。
有効性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ☒ 具体的な手段、事務事業名 ☒ 余地がない 他に手段がない。
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？) ☒ 削減余地がない 被保険者自身の健康管理、健康づくりの自覚が医療費の抑制につながることで及び申し込み方法及び受診時の助成券交付などの事務を工夫し簡素化しているので削減の余地はない
効率性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？) ☒ 公正・公平である 市内の被保険者が対象なので公正公平である。
公平性	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																											
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒	人間ドック550名、脳併用ドック150名の定員を設定しているが、予算の範囲内で定員以上の助成を行っている。また、助成対象の健診機関を9機関に拡大した。																											
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																											
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う ☒ 現状維持 ☐ 廃止 ☐ 休止		(複数回答可) ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☐ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																											
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th></th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○				低下							
		コスト																											
		削減	維持	増加																									
成果	向上																												
	維持	○																											
	低下																												
		(6) 事務事業優先度評価結果																											
		成果優先度評価結果 ☒ ①																											

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 ☒ A A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 ☐